

船舶事故調査報告書

平成29年11月15日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故種類	浸水
発生日時	平成29年3月26日 07時35分ごろ
発生場所	北海道古平町古平漁港北方沖 古平港東防波堤灯台から真方位010° 1.5海里付近 (概位 北緯43° 17.8′ 東経140° 39.0′)
事故の概要	プレジャーボート第16潮丸は、航行中、機関室に浸水した。
事故調査の経過	平成29年4月7日、主管調査官（函館事務所）を指名 原因関係者から意見聴取実施済
事実情報	
船種船名、総トン数	プレジャーボート 第16潮丸、3.6トン
船舶番号、船舶所有者等	200-38962北海道、個人所有
乗組員等に関する情報	船長、一級小型・特殊・特定
負傷者	なし
損傷	主機等に濡損、沈没（全損）
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 南、風力 1、視界 良好 海象：海上 平穏
事故の経過	<p>本船は、船長が1人で乗り組み、友人3人（以下「同乗者」という。）を乗せ、平成29年3月26日07時30分ごろ古平漁港北方沖の釣り場に向けて同漁港を出港した。</p> <p>本船は、07時35分ごろ、突然主機の回転数が低下した。</p> <p>船長は、主機を停止して機関室を点検したところ、主機の冷却海水吸入側のゴムホースが破損し、機関室が船底から約75cmの高さまで浸水しているのを認め、マリーナに携帯電話で救助を求めた。</p> <p>船長及び同乗者は、07時45分ごろ、マリーナから連絡を受けて来援した漁船に救助された。</p> <p>本船は、船長及び同乗者を救助した漁船により古平漁港に向けてえい航されていたところ、08時30分ごろ古平町丸山岬沖で沈没した。</p> <p>本船は、平成28年12月から本事故当日までの約4か月間、マリーナに上架されており、平成29年になってから、初めての航海であった。</p> <p>船長は、発航に当たって主機を始動する前に主機の冷却海水システムを点検していなかった。</p> <p>船長及び同乗者は、全員が救命胴衣を着用していた。</p>
分析	<p>本船は、古平漁港北方沖を航行中、主機の冷却海水吸入側のゴムホースが破損したことから、機関室に浸水したものと考えられる。</p> <p>船長は、発航に当たって主機を始動する前に主機の冷却海水システムを</p>

	点検していなかったものと考えられる。
原因	本事故は、本船が、古平漁港北方沖を航行中、主機の冷却海水吸入側のゴムホースが破損したため、機関室に浸水したものと考えられる。
参考	今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。 ・ 主機を始動する前に主機の冷却海水系統の点検を行うこと。